＜３０－０２＞

<table>
<tr><td>課　題
名</td><td>宇治茶の持続的発展のための生産体制の強化
～てん茶生産技術と相楽東部の茶産地支援～</td><td>ものづくり・
販路づくり</td><td>山城北農業改良普及センター
山城南農業改良普及センター</td></tr>
<tr><td colspan="2">(1)普及指導事項（評価対象）
良質てん茶の安定生産支援</td><td colspan="2">(2)普及指導対象
南山城村内のてん茶共同工場の組合員　24 名</td></tr>
<tr><td colspan="4">(3)活動内容と成果
・被覆開始や摘採を適期に行えるように、写真を用いて新芽の生育状況を判断する目合わせ及び被覆・摘採適期の指導を行った結果、生産者の新芽生育状況の判定に個人によるバラツキがなくなり、被覆開始や摘採の判断が適切に行えるようになった。

・生葉の状態に応じた適正な蒸熱方法を習得してもらうため、茶工場毎に巡回指導を行った結果、蒸し程度の判断、蒸熱操作の要点の理解が進み、生産者自ら工夫するようになった。

・良質生葉生産のための栽培管理の習得や、栽培管理・製造条件と荒茶品質データとの関係を理解してもらうため、現地調査、官能検査及び成分分析を行った。結果は研修会等で報告し、適期被覆したものはそうでないものよりアミノ酸含有量が高い分析結果を示し、品質向上のために適期被覆する重要性を伝えることとした。</td></tr>
<tr><td colspan="2">(4)コメント</td><td colspan="2">(5)普及指導計画への反映状況、今後の活動等</td></tr>
<tr><td colspan="2">❶記録とデータをもとに見える化した技術指導（被覆タイミングや摘採適期）は効果的であったと思われる。指導事項②での若手育成や新規就農への働きかけについても、同様に見える化し、より具体化できないか。</td><td colspan="2">❶茶業塾や茶園バンクの運営などについての図表を作成することにより「見える化」し、全体の具体的イメージを共有化することに努めます。また、若手や新規就農者への働きかけについても具体的なスケジュール（茶業塾における月間、年間カリキュラムなど）を示した上でガイダンスするなど、可能な限り見える化したいと考えています。
　また、非農家からの新規就農については、来年度当初予算案に盛り込まれる「宇治茶実践型学舎事業費」で茶業研究所、南山城村役場等とも連携し、次代の担い手を確保・育成する取組を進めていきたいと考えています。</td></tr>
</table>

(4)コメント	(5)普及指導計画への反映状況、今後の活動等
❷単価向上のために、栽培や製造管理の基本的な技術の励行が必要であることが認識されたことは成果であると考えます。ただし、被覆や施肥など基本的な技術が励行されてこなかった理由を把握し、最適な管理について、生産者の問題意識を醸成する必要があるのではないか。	❷「基本技術の励行」がされてこなかった理由は大きく分けて２つあり、一つ目は被覆適期や摘採適期にあたる茶芽の状態を的確に把握する難しさです。指導する側は茶芽調査に基づき 1.5 葉期、2.0 葉期など数値で伝達しますが、調査経験がない生産者にとってはその数値の示すところが理解しにくいためです。このことについては記録とデータの見える化で改善を図ってきたところです。二つ目は工場の処理能力や労働力不足のため作業が遅れる場合です。どちらの場合でも実際に研修会で製品を見比べ、意見交換することにより問題意識は醸成できていると考えています。先日行った研修会アンケートにおいても適期被覆や適期摘採が難しいという回答が多くありました。このため改めて、摘採から加工までのスケジュール管理を見直す提案も必要と考えています。
❸技術課題に対する変化は、対象者が技術を理解したことや、行えるようになったことに加え、茶単価にどれくらい反映したかが重要な変化と考えます。来年度には具体的な数字も示してほしい。	❸生産者からデータをいただくのに時間がかかり外部評価会に間に合いませんでした。今後はより協力をいただけるよう生産者に働きかけたいと思います。 （以下成果指標の具体的数値） １．「初茶てん茶」※1並の平均単価をめざす 全農茶市場初茶てん茶平均単価対比　平成 30 年度　3,748 円 ２．研修会の内容が理解される アンケートによる理解度調査結果　95% ３．研修会の内容が実践される アンケートによる実践度調査結果　45% 実践度が低い原因としては❷のとおり分析しています。

(4)コメント	(5)普及指導計画への反映状況、今後の活動等
❹市場の選択買いの傾向は今後も継続が予想される中、品質成分などの客観的な指標による品質改善効果のアピール方法が必要ではないか。	❹現在の茶市場における取引では茶商が自ら官能検査を行い判断しています。茶の品質評価には化学成分含量だけではなく分析機器では判別できない微妙な味や香りについても総合的な評価が必要となります。品質や機能性のＰＲについては、ＪＡ・行政等関係機関挙げて行うことが効果的と考えますので、より一層しっかりと連携していきます。
❺良質てん茶の生産により茶業収入を増大させ、茶業後継者が育つ進捗や活動に期待しています。 後継者の確保のために作業管理、労働面の課題に対しての解決策の提案や、地域全体の人の合意形成もとりながら、法人運営を委託できる道も模索してほしい。	❺直掛け被覆作業の臨時労働力確保が一番の問題点であるのは御指摘のとおりだと考えます。その解消に向けて、個人での雇用確保には限界があるため、共同工場や地域全体での人材確保の仕組みづくりについて地域で検討するよう提案することも必要だと考えます。 　また、担い手確保のため法人化することで外部から優秀な人材を確保することが可能になると考えます。考慮して今後の活動を進めます。

※１「初茶てん茶」：全農京都茶市場において一番茶てん茶のうち機械摘みのもの。棚被覆と直掛け被覆の両方を含む